
AGWAY

エッセンシャル版

Since 2012

2024 年 11 月 18 日 改

はじめに

AG WAY は、アイグループが存在する目的、経営のよりどころとなる心構え、利害関係者にアイグループが創り届けようとする豊かさを明らかにし、そのためにアイグループまたは経営者やアソシエイトはどのように行動すべきかを端的に表現したもので、アイグループが最も大切にしている価値観の結晶ともいえます。

本冊子の目的は、利害関係者ごとにアイグループが創り届けようとする豊かさがどのようなもので、そのためにアイグループ、経営者やアソシエイトはどのように行動すべきかを理解してもらうことです。

AG WAY は、エッセンシャル版とガイド版に分かれます。

エッセンシャル版は、経営者やアソシエイト全員を対象として、理解・共感してもらうために書かれています。

ガイド版は、エッセンシャル版を深く理解してもらうこと、また、エッセンシャル版の内容からさらに広い範囲のテーマを取り上げ、理解してもらうために、主にマネジメントコースやスペシャリストコースの役職者を対象として書かれています。もちろん、スタッフコースの方やトレーニーの方も、もう一歩進んで AG WAY を理解しようと読まれることも歓迎です。

なお、アイグループは、アイグループに関心を持っていた社外の方にも、ご要望があれば本冊子をお渡ししてまいります。

AG WAY

企業理念・ビジョン

真の豊かさを創る

経営理念

不易流行を軸に鬼手仏心の経営を実践する

行動原則・行動指針

【お客様への約束】

[行動原則]

アイグループは…

誠意ある行動をとり、お客様により良い価値を創造し、提供します

[行動指針]

私たちは…

●お客様の笑顔が私たちの喜びであり、その喜びを私たちの原動力とします

●お客様にご満足いただくため、知識・技術を磨き、営業努力を続けます

●すべてのお客様に感謝の気持ちを持ち、心を込めたおもてなしをします

●個人情報・重要事項は細心の注意を払って取り扱います

【アソシエイトへの約束】

[行動原則]

アイグループは…

アソシエイト一人ひとりの「才能を見つけ、才能を活かし、才能を育てる」環境を整え、健全な仕事観を持った自律人としての成長を促し、自己実現を果たす支援を行ってまいります

[行動指針]

私たちは…

- 困難な仕事ほど、楽しく、前向きに取り組めます
- 問題点を正しく認識し、解決策を提案します
- 現状に満足せず、向上心を持ち続けます
- 明るく、思いやりがあり、働きがいのある職場環境を創ります
- 仲間の良い行動を見つけ、相互理解を深めます
- 心身ともに日々健康維持に努めます

【お取引先様への約束】

[行動原則]

アイグループは…

お取引先様とは、ビジネスパートナーとして互いに良好な関係を築いていきます

[行動指針]

私たちは…

- 会社を代表して公正な取引を行います
- 情報を共有して、つながりを大切にし、信頼関係を築きます
- 信頼に基づいた末永い取引を目指します

【地域・社会への約束】

[行動原則]

アイグループは…

地域とのつながりを大切にし、社会に貢献します

[行動指針]

私たちは…

- 地域に密着し、必要とされる存在となります
- 関連法令・諸規則を遵守し、地域・社会との調和をはかります
- 地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します

【株主様への約束】

[行動原則]

アイグループは…

グループ各社の企業価値を高めて、株主様の期待に応えます

[行動指針]

私たちは…

- 付加価値を生み出し、企業ブランドを高めます
- 短期的な業績向上とともに、将来への投資も適切に行います
- 情報開示を通じて、信頼を得ます

AG WAY エssenシャル版 目次

I. 「会社」を理解する.....	1
1. 「会社」はなぜ必要とされるのか? [①分業と協業の視点から]	1
2. 「会社」はなぜ必要とされるのか? [②出資を集める手段の視点から]	2
3. 「会社は誰のためのモノか?」をめぐる意見の対立	4
II. AG WAY	9
1. AG WAY と企業理念・ビジョン・経営理念・行動原則・行動指針の意味	9
2. AG WAY はなぜ必要なのか?	10
3. AG WAY における企業理念・経営理念とビジョンの関係	12
III. 企業理念・ビジョン	18
1. 企業理念・ビジョンの「真の豊かさ」の意味	18
2. 「豊かさ」の種類	19
3. アイグループにとっての成果	21
4. 成果の評価対象と評価方法	22
5. 会社の評価基準	24
IV. 経営理念	28
1. 経営理念の意味	28
3. 経営の基礎知識 [①リーダーシップとマネジメント]	31
4. 真の豊かさの創り方～その前提と社風～	31
5. 経営の基礎知識 [②PDCA サイクルとPDCL サイクル]	33
6. 経営の基礎知識 [③効果的に目標を達成するための指標]	35
7. 経営の基礎知識 [④利益計算と利益の種類]	37
8. 経営の基礎知識 [⑤利益の性質]	38
9. 経営の基礎知識 [⑥目標とする利益]	39

V. 行動原則・行動指針	53
1. 行動原則と行動指針がステークホルダーごとに定められている理由	53
お客様に対して	53
1. 行動原則・行動指針の「お客様」とはどのような方か	53
2. ニーズとウォンツ	54
3. 顕在ニーズ・潜在ニーズとコンサルティング	55
4. サービスとホスピタリティの違い	56
5. 4段階の顧客価値	57
6. お客様の支持を得る努力の方向～マーケティングとイノベーション～	58
7. 小売業・サービス業が果たす社会的な役割と貢献	59
8. 「営業活動は親切活動」の意味	62
9. 顧客体験価値創造企業	63
アソシエイトに対して	64
1. アソシエイトにとっての「真の豊かさ」と幸せ	64
2. 心的要因の幸せの4つの因子	66
3. 幸せの要因と4種類の豊かさの関係	68
4. 自己受容	69
5. アソシエイトにとっての真の豊かさとキャリア・アンカー	70
6. 仕事の本質・二面性と仕事観	71
7. 健全な仕事観	73
8. 人財と一流	74
9. 目標管理と自律人	75
10. 目標を達成するための基礎知識[願望と意志の違い]	76
11. 目標を達成するための基礎知識[ストレスと不安との向き合い方]	78
12. 人財共育舎における教育と共育	79
13. 幸せの心的要因を満たす良質な環境づくりへの取り組み	81

14. 協業と事業特性とサッカー型組織観	83
15. サッカー型組織観に基づく組織運営の仕組みと特徴.....	85
16. 成果配分	85
お取引先様に対して.....	92
1. お取引先様に接する心構えと取引方針.....	92
2. パートナーシップの成立条件	93
地域・社会に対して.....	94
1. 地域・社会に届ける豊かさ.....	94
2. 社会的責任と社会貢献.....	95
3. 事業をととした社会問題の解決という社会貢献	95
株主様に対して	96
1. 株主様にとっての豊かさ.....	96
2. 成果配分利益と内部留保	97

凡例

文中の**太字**は、AG WAY の理解の ^{かぎ}鍵 となる重要な用語を意味します。その **太字**の前後にある下線「 」が引かれた文章は、**太字**で書かれた用語の意味を説明しています。

また、二重下線「 」が引かれた文章は、文章中の大切なポイントであることを意味します。

参考文献

小野桂之介『[新版]ミッション経営のすすめ』東洋経済新聞社,2005 年

金井壽宏訳『キャリア・アンカー―自分のほんとうの価値を発見しよう―』白桃書房,2003 年

小宮一慶『社長の心得』ディスカヴァー・トゥエンティワン,2014 年

斉之平伸一『脳力経営 新しい経営品質改革論』致知出版社,1998 年

前野隆司『幸せのメカニズム実践・幸福学入門』講談社,2013 年

ケリー・マクゴニガル『スタンフォードの心理学講義 人生がうまくいくシンプルなルール』日経 BP 社,2016 年

ジェームズ・スキナー『原則中心』キングベアー出版,2014 年

P.F.ドラッカー『マネジメント―基本と原則[エッセンシャル版]』ダイヤモンド社,2001 年

I. 「会社」を理解する

1. 「会社」はなぜ必要とされるのか? [①分業と協業の視点から]

今日の社会において、「会社」はあって当たり前の、あまりにも身近な存在です。私たちは、労働者として「会社」に勤め給料を得て生計を立て、消費者として「会社」から製品やサービスを買って生活しています。「会社」のない社会など、想像できないかもしれません。

しかし、「会社」というまでもなく、社会が法律で規定した制度上の存在にすぎません。「会社」は人がつくり出した存在である以上、社会から不要とされれば消えていくだけです。それでも、「会社」がこれほどまでに社会に存在感を示し浸透しているのは、「会社」が人々に価値をもたらす必要とされているからでしょう。では、なぜ「会社」はそれほどまでに必要とされるのでしょうか?

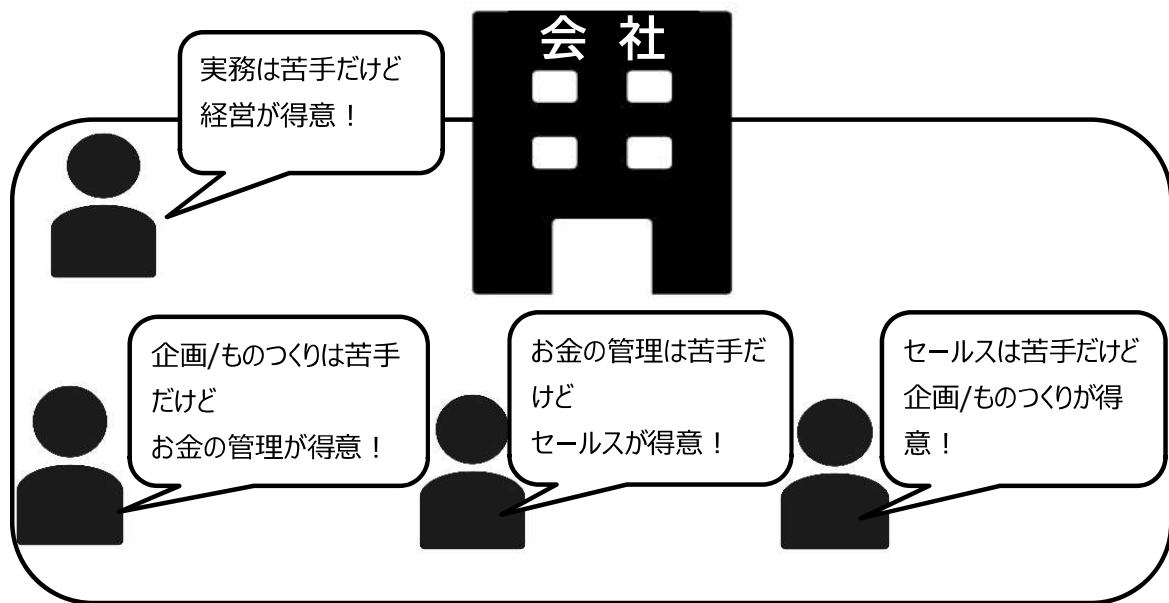
「会社」が必要とされている理由を、二つの視点から見ていきましょう。

まずは、分業と協業の視点です。

なぜ「会社」は社会に価値をもたらす、必要とされる存在でいられるのでしょうか?

皆さんはそれぞれ一人一人「強み(=得意な活動)」と「弱み(=不得意な活動)」を持っているはずです。もし、社会に会社という制度(=仕組み)がなくて、皆さんが一人で働いて価値のある物(=製品)やサービスを生み出し、それらを売って生計を立てていかなければならないとしたら、どんなことに困るのでしょうか?

物を作るのは得意だけれど売るのが苦手な人は、「自分が物を作るから、誰か上手に売ってきてくれないかな」と思うでしょうし、売るのは得意だけれどお金の管理が苦手な人は、「自分が売ってくるから、お金の管理をしてくれないかな」と思うでしょう。



そんなとき、会社があって、様々な得意な活動(仕事)を持つ人たちが集まってきて、そこに各人の得意な仕事を上手にまとめて、全体で協力し合いながら仕事を進める采配をするのが得意な人^{※注1}がいれば、各自が得意な仕事を分担して働くこと(分業)で、全体として効率的に仕事を進めることができます。得意なことも苦手なことも ^{おのおの}各々が一人で抱えて仕事を進めるよりも、その成果はきっと高いものとなるでしょう。

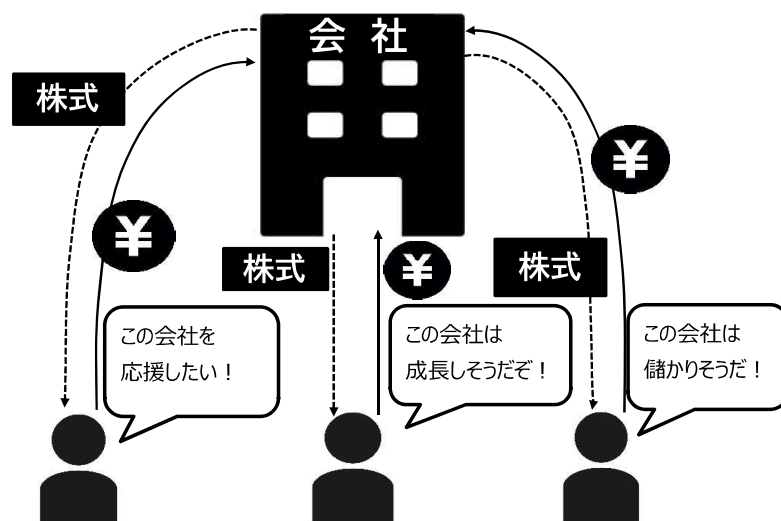
つまり、働く人からしてみると「会社」という場があることで、自分の得意な仕事に専念することができ、苦手な仕事はその仕事で得意な他の誰かに代わってもらうことができるのです。そこでは、お互いが協力し合って仕事を進めること(協業)が行われます。仕事の分業と協業が進められているのです。このことは、社会全体から見ても、社会全体が豊かになる働き方として望ましいのです。これが、現代社会で「会社」という仕組みが支持されている、一つの理由といえます。

2. 「会社」はなぜ必要とされるのか?【②出資を集める手段の視点から】

次は、出資を集める手段としての視点です。

ただその説明を理解するために、今日の代表的な「会社」形態である、株式会社制度の基本的な内容から理解しておきましょう。

会社が事業を行うためには、事業の元手となる資金(=出資金)を集める必要があります。株式会社で出資金を出資してくれる人を株主といいます。株主は、出資することで**株式**という株主の地位を得ます。株主が得る株式数は、出資金に応じて決まります。株



主は、この株式によって自分の会社に対する権利を行使することができます。

例えば、会社利益が計上されれば、株主は、法律の規定の範囲内で儲かった利益を、株式数に応じて配当(=分配)として受け取ることができます。また、株主は、出資金(株式会社では資本金といいます)を誰に任せて事業運営させるかについても、自分の望む候補者に株式数に応じて投票する権利を行使できます。株主から任命された事業の運営者が取締役(=経営者)になります。

これらの意思決定は、株主が出席する株主総会という会議体で決定します。株主総会においての意思決定は、議案に対して必要な株式数の賛同を得た案が採用されます。法律で規定された取締役の任命、会社の解散・売却、事業の売却などの株式会社の重要な意思決定は、株主総会で行われます。その意思決定に自分の意思を反映させようとするれば、株主は株式を多く持たなければなりません。

つまり、より多くの配当を得たければ、会社に対して自分の意思をより強く反映させなければ、多額の出資を行い多くの株式を保有すればよいのですが、多くの株式数を持つということは、それだけ多くのリスクを負うことにもつながります。なぜなら、会社が倒産した場合、出資額は株主に返還されないからです。そのため、そんなリスクを